

えびな生きもの大調査 2023

調査報告書



目 次

- 1 えびな生きもの大調査 2023 について……………P1**
- 2 えびな生きものマップ 2023……………P2**
- 3 生物多様性とSDGs……………P3**
- 4 生物多様性と気候変動……………P4~5**
- 5 在来種と外来種……………P6**
- 6 海老名市内で発見された主な外来種……………P7~9**
 - ・オオキンケイギク
 - ・アメリカザリガニ
 - ・アカミミガメ(ミシシippアカミミガメ)
- 7 海老名市内で発見された主な希少種……………P10**
 - ・ドジョウ
 - ・ツバメ
- 8 私たちにできること……………P11**
- 9 今回発見された植物・動物……………P12~14**

えびな生きもの大調査2023について

1 調査概要

市内を巡り身近な自然環境に触れながら、生き物・樹木及び花などを探し、見つけた生きものを4つのジャンル別に絵や写真で記録するもの。

2 実施期間

令和5年7月1日（土）から同年9月29日（金）まで

3 提出状況について

未就学児	小学生	中学生	一般	合計
2名	86名	0名	6名	94名

4 実施結果（概要）

区分	発見種類数	発見された主な動物
植物	55種	ヒマワリ、アジサイ、シロツメクサ
昆虫	47種	カブトムシ、バッタ、モンシロチョウ
鳥・その他の動物	30種	スズメ、カラス、ネコ
魚・両生類・は虫類	26種	コイ、メダカ、カエル

5 えびな生きものマップについて

今回提出いただいた調査結果でえびな生きものマップ（→P. 2へ）を作成しました。



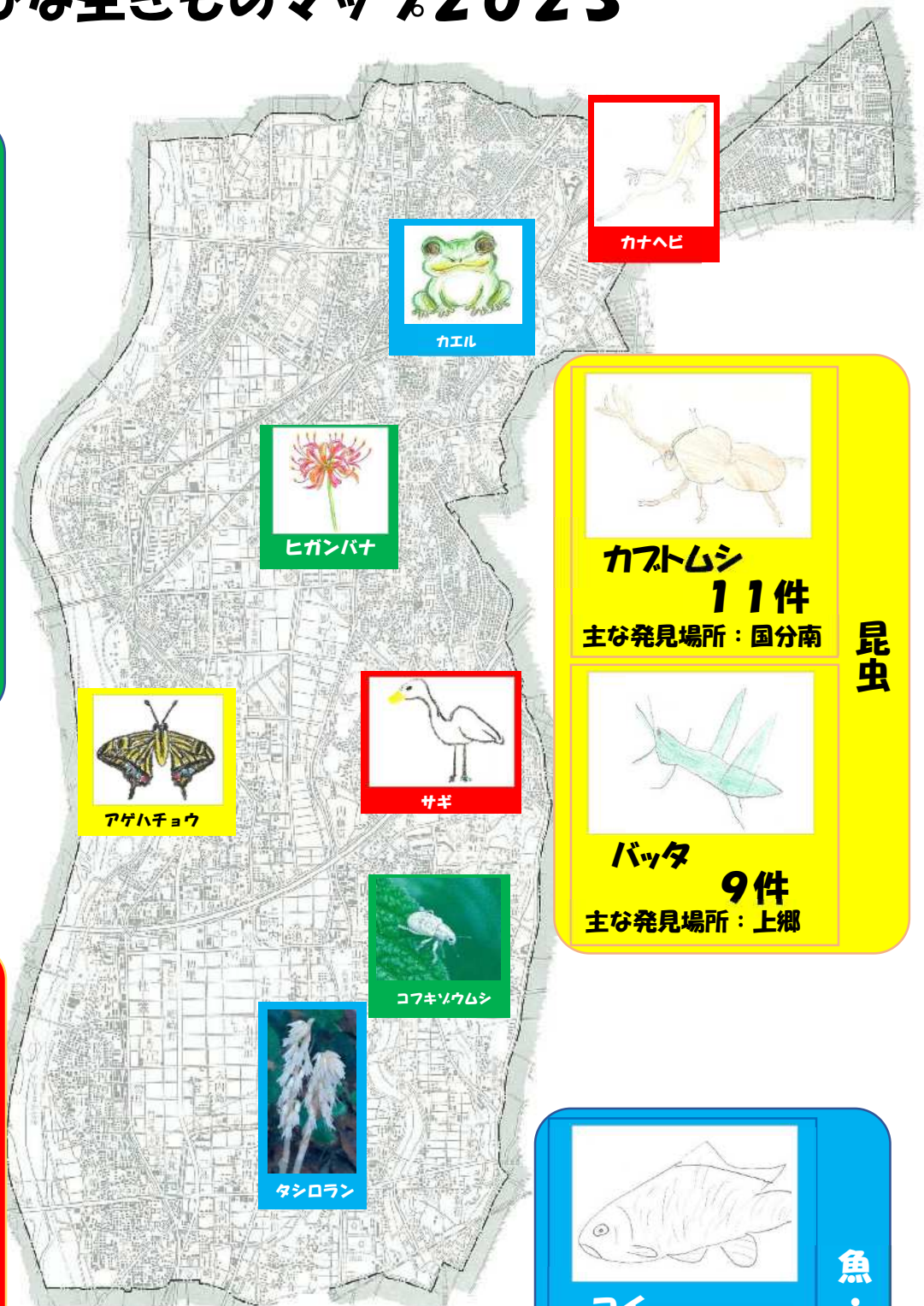
生きものマップの中には、発見した主な生きもののほかに、4種類（植物、昆虫、鳥・その他の動物、魚・両生類・は虫類）のうち、多く発見された種類を左の表のようにまとめています。

提出されたイラスト

多く発見された種類（上位2種類）と発見件数

発見された主な場所

えびな生きものマップ2023



植物



ヒマワリ
14件

主な発見場所：上今泉



アジサイ
8件

主な発見場所：上今泉

鳥・その他動物



スズメ
13件

主な発見場所：柏ヶ谷



カラス
10件

主な発見場所：泉



カエル



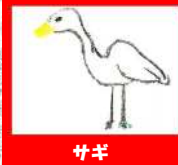
カナヘビ



ヒガンバナ



アゲハチョウ



サギ



コフキムシ



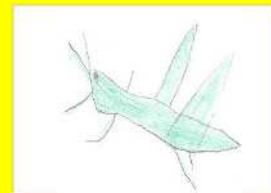
タシロラン



カブトムシ
11件

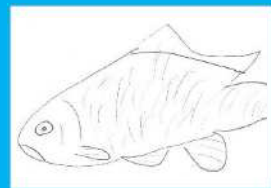
主な発見場所：国分南

昆虫



バッタ
9件

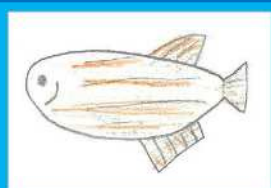
主な発見場所：上郷



コイ
13件

主な発見場所：上今泉

魚・両生類・は虫類



メダカ
12件

主な発見場所：下今泉

せいぶつたようせい
生物多様性とSDGs

生物多様性とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのことを言います。
 地球上の生物は 40 億年という歴史の中で、様々な環境に適応し進化し続けた結果
 3000 万種ともいわれる多様な生物が生まれました。

これらの生命は一つひとつに個性があり、全て直接に、間接的に支えあっています。
 近年この生物多様性は、乱獲による数の減少や外来種による生態系の影響によって
 地球規模で損失と劣化が進んでいます。

このことから、SDGs では 15 番目の目標としても下のような目標が掲げられて
 います。
参照：環境省「みんなで学ぶ、みんなで守る生物多様性」より



目標 15 【陸の豊かさも守ろう】
 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の防止の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。

この目標は、持続可能な形で森林を管理し劣化した土地を回復し、自然生息地の劣化を食い止め、生物多様性の損失に終止符を打つことに注力するものです。

これらの取り組みを全て取り組むことができれば、森林その他の生態系に直接依存する人々の生計を守り、生物多様性を豊かにし、これらの天然資源の恩恵を次の世代に繋げることができます。
参照：農林水産省 HP「SDGs17 の目標と 169 のターゲット」より

SDGs (エス・ディー・ジーズ) とは？

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略で、平成 27(2015)年 9 月の国連サミットで採択された、17 のゴールと、ゴールごとに設定された合計 169 のターゲットから構成されている、人類及び地球の持続可能な開発のために達成すべき課題とその具体目標であり、令和 12(2030)年までに実行、達成すべき事項を整理したものです。

参照：海老名市「海老名市第三次環境基本計画」より

生物多様性と気候変動

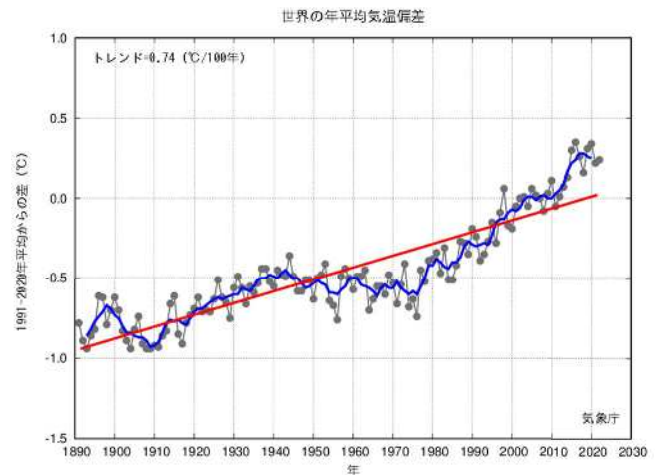
●過去 100 年の気候変動

この 100 年間で

世界の平均気温は約 0.69℃

日本の平均気温は約 1.14℃

上昇しています。



出典：気象庁 HP

いま、地球全体で温暖化がすすんでいます！

地球温暖化のメカニズム

1. 太陽からのエネルギーで地上が温まる
2. 地上から放射される熱を温室効果ガス※が吸収・再放射して大気が温まる
3. 温室効果ガスの濃度が上がる
4. 温室効果がこれまでより強くなり、地上の温度が上昇する
5. これが地球温暖化

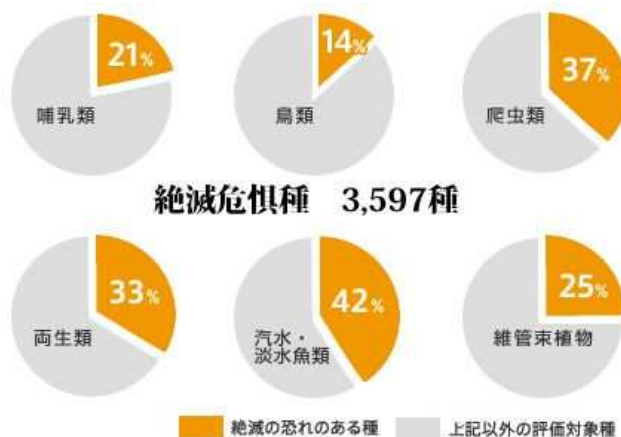


出典：環境省 HP

●生物多様性の危機

私たち人間の活動により
1年間で4万種もの生物が
絶滅していると言われています。

地球の気温が1～3℃上昇すれば、
20～30%の生物が絶滅に近づくと
されています。



出典：環境省 HP

地球の気温が上昇すると、今まで暖かい地域で生息していた生きものの生息域が北上し、寒い地域で生息していた生きものが住処を追われます。これは、従来の生態系を壊すことに繋がります。



●神奈川で見られるようになった生きもの



ツマグロチョウモン



ナガサキアゲハ

昨年度の調査で、ツマグロチョウモンが2件、ナガサキアゲハが1件の報告がありました。これらは、温暖な地域で生息するチョウであり、気温の上昇に伴って、生息域が拡大しました。

ざいらいしゅ がいらいしゅ
在来種と外来種

外来種は外国や他の地域から持ち込まれた生物の事を指し、ほとんどの外来種は人間の手によって持ち込まれたものです。

外来種は、昔からその地域に住んでいる在来種を食べたり、住みかを奪うなどして生態系を大きく壊してしまう恐れがあります。

在来種

昔からその地域に住んでいる生物

- ・アユ
- ・メダカ（ニホンメダカ）
- ・ヒキガエル（ニホンヒキガエル）
- ・スミレ ・アヤメ など

希少種

在来種の中でも数が減少している生物

- ・トキ ・コウノトリ
- ・タガメ ・トノサマガエル
- ・オオサンショウオ など

希少種の中でも…

特に数が少ない種類は、絶滅の危険度に応じて

- ・絶滅危惧（絶滅の危機に瀕している種など）
 - ・準絶滅危惧（生態環境によっては絶滅危惧になる種）
- といったカテゴリーに分けられています。

外来種

外国や他の地域から持ち込まれた生物

- ・アカミミガメ
- ・アメリカザリガニ
- ・オオクチバス など

特定外来生物

- ・オオキンケイギク
- ・セアカゴケグモ
- ・アライグマ など

生態系に大きな影響

とくていがいらいせいぶつ

特定外来生物とは…

外来種のうち、生態系、生命、身体、農林水産物へ被害を及ぼす可能性がある生物を指します。

生態系とは？

生物間の相互関係と水、空気、光などの生物を取り巻く環境間の相互関係を総合的にとらえた生物社会のまとまりのことです。

参照：環境省 HP「日本の外来種対策」

同上「レッドリストのカテゴリー」より

次ページから今回の調査で発見された外来種・希少種をご紹介します→

海老名市内で発見された主な外来種

特定外来生物

キク科 体長：30cm～70cm 原産地：北アメリカ

オオキンケイギク

どんな植物

初夏に花を咲かせる多年草です。花びらの色は黄橙色で、花の中央部も同じ色ですが品種によっては、基部が紫褐色のものもあります。多年草であり、種子が地中で生き残るため、同じ場所に何年も生える可能性があります。北アメリカ原産の植物ですが、日本のほかにも台湾やニュージーランドでも定着しています。



住んでいる場所

- ・河川敷や線路際などの荒地や海岸
- ・市内の各地で確認されています。

在来種への影響・被害

高い繁殖能力を持っており、他の植物の生息場所を奪ってしまう恐れがあります。

どうやって日本に来たの？

1880年代に観賞用や土地の緑化植物として日本に導入され、現在では、日本全国に定着しており、完全な駆除は非常に難しい状況にあります。造成地、土手、道路や線路わきなどの土地に集団で生えているのが見られます。

～オオキンケイギクを見つけたら～

見かけたときは、

根から引き抜き

種が落ちないように

処分してください。

※または、生えている敷地の管理者等に連絡・相談ください。

オオキンケイギク
見かけたら根から引き抜きを

環境政策課 ☎(235)4912

5月～7月にコスモスに似た形の黄色い花をつける北米原産のオオキンケイギクの駆除にご協力をお願いします。
繁殖力が非常に強く在来の野草を駆逐してしまうため、特定外来生物に指定されています。見つけたときは根から引き抜き、種が落ちないように処分してください。詳細は市ホームページをご覧ください。



【参考】広報えびな7月1日号

令和5年6月から
条件付特定外来生物

〔十脚目アメリカザリガニ科 体長：約15cm 原産地：アメリカ合衆国〕

アメリカザリガニ

どんな動物

アメリカザリガニは汚れた水や高温水に強い生物で、冬は水辺の土中にもぐって冬を越し、寿命は数年あるとされています。
また、ザリガニカビ病を広め、在来種のニホンザリガニを減少させる恐れもあります。
アメリカ原産の動物ですが、アジア各国やアフリカでも定着しています。



住んでいる場所

- ・田んぼ、用水路、池など流れのない浅い水辺
- ・市内の各地で確認されています。

在来種への影響・被害

なんでもよく食べる動物で在来の小動物や水草などを食べ自分で水草などを引き抜いて自分が暮らしやすい環境を作るため、本来いた在来種の住みかを奪ってしまい生態環境を壊してしまいます。

どうやって日本に来たの？

1929年にウシガエルのエサとしてアメリカ合衆国から初めて輸入され、そこからペット用として飼育されるようになったことから分布が広がり、現在では、日本全国に定着しており、完全な駆除は非常に難しい状況にあります。

令和5年6月から
条件付特定外来生物

〔カメ目ヌマガメ科 甲長：約28cm 原産地：北アメリカ〕

アカミミガメ (ミシシippiaアカミミガメ)

どんな動物

主に水域に生息していますが、水質汚染にも強く、都市部の汚染された河川等にも生息しています。
雑食性で魚や水生昆虫、水生植物など様々な種類を食べます。
北アメリカ原産の動物ですが、現在は全世界で定着しています。



住んでいる場所

- ・河川、湖沼、池や水路など
- ・市内では、国分北や永池川などで確認されました。

在来種への影響・被害

同じような場所に住むニホンイシガメに比べ、体が大きくなり、繁殖力も強いいため食べ物や住処を奪ってしまいます。

どうやって日本に来たの？

1950年代に、ゼニガメ（ニホンイシガメの子供）の代わりにミドリガメ（アカミミガメの子供）の飼育が全国的に広がり、年間100万匹のミドリガメが輸入されました。その個体が野外に放たれたりしたものが、野生化しました。

アカミミガメとアメリカザリガニを野外に放さないで！

令和5年6月1日よりアメリカザリガニとアカミミガメが条件付き特定外来生物※に指定されました。（※特定外来生物の規制の一部を適用除外とする）



アカミミガメ



アメリカザリガニ

認められていること・禁止されていること

- ☑一般家庭でペットとして飼育しているアメリカザリガニやアカミミガメは、これまで通り飼うことができます。
- ☑池や川などの野外に放したり、逃がしたりすることは禁止されています。
- ☑どうしても飼い続けることができなくなった場合は、無償で責任を持って飼える人に譲渡することが可能です。



捕獲



飼育



無償譲渡



放出



販売・頒布・購入



最後まで責任を持って飼育し続けましょう。
野外で捕まえたものを安易に持ち帰ることの無いようにしましょう。

海老名市内で発見された主な希少種

準絶滅危惧種

〔コイ目ドジョウ科 体長：約15cm〕

ドジョウ

どんな動物

春から秋にかけて見ることができます。田んぼの稲の成長を助ける淡水魚であり、藻類や小動物など様々なものを食べます。えら呼吸と皮膚呼吸が可能な魚で、皮膚呼吸を利用して冬の間は、泥の中で過ごします。2018年に準絶滅危惧種に分類されています。



住んでいる場所

- ・田んぼの底（泥の中）、小川、水路
- ・市内では、中新田などで確認されました。

減少した理由

- ・住処である川や田んぼの減少・汚濁
- ・住処である田んぼ内での農薬の過剰使用によるもの
- ・カラドジョウ（外来種）との生存競合

減少種

〔スズメツバメ科 体長：約17cm〕

ツバメ

どんな動物

夏になると日本へ飛来する渡り鳥（夏鳥）です。北半球の広い範囲で分布しています。住宅街で見かけることが多く、家の軒下等に巣を作り、子育てをします。人間社会と結びつきの深い鳥です。地面におりることが少なく、飛んでいる昆虫を空中で捕食し、水面上を飛びながら水を飲みます。



住んでいる場所

- ・住宅街
- ・市内では、扇町、大谷などで確認されました。

減少した理由

- ・建物の構造変化により、営巣環境が悪化している。
- ・カラス等の捕食者の増加

私たちにできること

今回のえびな生きもの大調査 2023 では、海老名市内で多くの生きものが住んでいることが分かりました。その中には、希少種であるドジョウなども確認できました。

その一方で、生態系に大きく影響を与える外来種も多く住みついていることが分かりました。

外来種による生態系の悪影響と生物多様性の損失をこれ以上防ぐため、私たちが今出来ることを考えていきましょう。

ペットを野外に放さないで！

今回発見されたアメリカザリガニやアカミミガメは、もともとペットとして輸入され飼われていたものが放されたり逃げたりしたものが野生化して日本に定着しました。

ペットショップなどで動物の赤ちゃんを見ると、つい飼いたくなってしまうことがあります。最後まで自分が責任もって飼えるかどうかよく考えたうえで、ペットを飼うようにしましょう。

そして、飼ったペットは決して野外に放さないようにしましょう。

○外来種被害を予防する三原則

・入れない

外来種をむやみに日本に**入れない**。

・捨てない

ペットとして飼っている外来種を野外に**捨てない**。

・拡げない

野外にいる外来種はこれ以上増やさない。
また、他の地域に**拡げない**。

参照：環境省 HP 「日本の外来種対策」より

今回発見された植物・動物

() 内の数字は発見件数

項目別に五十音順で並んでいます

植物

- ・ アサガオ (2件)
- ・ アジサイ (8件)
- ・ イネ (3件)
- ・ エノコログサ (1件)
- ・ オオキンケイギク (1件)
- ・ オシロイバナ (1件)
- ・ オニユリ (1件)
- ・ ガーベラ (1件)
- ・ カタバミ (2件)
- ・ キュウリ (1件)
- ・ キュウリノハッパ (1件)
- ・ クスノキ (1件)
- ・ クチナシ (1件)
- ・ クローバー (1件)
- ・ クワノハ (1件)
- ・ ケヤキ (1件)
- ・ コウホネ (1件)
- ・ コスモス (1件)
- ・ サクラ (1件)
- ・ サルスベリ (4件)
- ・ サンショウ (1件)
- ・ シヤスターデージー (1件)
- ・ シロイハナ (2件)
- ・ シロツメクサ (6件)
- ・ スイセンノウ (2件)
- ・ スズメノヤリ (1件)
- ・ タシロラン (1件)
- ・ タマスダレ (1件)
- ・ タンポポ (4件)
- ・ ツキミソウ (1件)
- ・ テッポウユリ (1件)
- ・ ナシノキ (1件)
- ・ ネコジャラシ (6件)
- ・ ノゲシ (1件)
- ・ ハイビスカス (1件)
- ・ ハス (1件)
- ・ ハルジオン (1件)
- ・ パンジー (1件)
- ・ ピーマン (1件)
- ・ ヒガンバナ (1件)
- ・ ヒマワリ (14件)
- ・ ヒメガマ (1件)
- ・ ヒルガオ (2件)
- ・ フウセンカズラ (1件)
- ・ フヨウ (1件)
- ・ ホウセンカ (1件)
- ・ ポーチュラカ (1件)
- ・ マリーゴールド (2件)
- ・ ミニトマト (1件)
- ・ ムラサキツメクサ (1件)
- ・ ヤブガラシ (1件)
- ・ ユウガオ (1件)
- ・ ユウゲショウ (1件)
- ・ ユリ (1件)
- ・ ワタゲ (1件)

昆虫

- ・ アオスジアゲハ (1件)
- ・ アオムシ (1件)
- ・ アカギマダラ (1件)
- ・ アキアカネ (1件)
- ・ アゲハチョウ (2件)
- ・ アシナガバチ (2件)
- ・ アシナガバチ (2件)
- ・ アブラゼミ (4件)
- ・ アメンボ (2件)
- ・ アリ (4件)
- ・ オンブバッタ (1件)
- ・ カナブン (4件)
- ・ カバチゴケグモノス (1件)
- ・ カブトムシ (11件)
- ・ カマキリ (3件)
- ・ カミキリムシ (2件)
- ・ カミサマトンボ (1件)
- ・ キアゲハ (1件)
- ・ キリギリス (1件)
- ・ クロアゲハ (2件)
- ・ クワガタ (7件)
- ・ コガネムシ (3件)
- ・ コフキゾウムシ (1件)
- ・ ゴマダラカミキリ (2件)
- ・ シモフリスズメガヨウチュウ (1件)
- ・ ショウリョウバッタ (2件)
- ・ ジョロウグモ (1件)
- ・ スズムシ (1件)
- ・ セスジスズメヨウチュウ (1件)
- ・ セミ (3件)
- ・ ダンゴムシ (3件)
- ・ チョウ (2件)
- ・ テントウムシ (1件)
- ・ トンボ (4件)
- ・ ナナホシテントウムシ (1件)
- ・ ハグロトンボ (3件)
- ・ ハチノス (1件)
- ・ バッタ (9件)
- ・ ヒメクワガタ (1件)
- ・ ミツバチ (1件)
- ・ ミドリカナブン (1件)
- ・ ミミズ (2件)
- ・ ミンミンゼミ (1件)
- ・ ムラサキシジミ (1件)
- ・ モンシロチョウ (5件)
- ・ ヤマトシジミ (1件)
- ・ レーナカミキリ (1件)

鳥・その他の動物

- ・ アヒル (2件)
- ・ イヌ (1件)
- ・ ウグイス (1件)
- ・ カモ (4件)
- ・ カモメ (1件)
- ・ カラス (10件)
- ・ カラスのヒナ (2件)
- ・ カルガモ (2件)
- ・ カワセミ (1件)
- ・ ゴイサギ (1件)
- ・ コサギ (白) (1件)
- ・ サギ (6件)
- ・ シジュウカラ (1件)
- ・ シバイヌ (2件)
- ・ シラサギ (6件)
- ・ シリタタキ (1件)
- ・ シロサギ (5件)
- ・ スズメ (13件)
- ・ タヌキ (1件)
- ・ チュウサギ (1件)
- ・ ツバメ (6件)
- ・ ドバト (1件)
- ・ ネコ (7件)
- ・ ハクセキレイ (1件)
- ・ ハト (7件)
- ・ ポニー (2件)
- ・ ムクドリ (4件)
- ・ モグラの掘った穴 (1件)
- ・ モズ (1件)
- ・ ワカケホンセイインコ (1件)

魚・両生類・は虫類

- ・ アオダイショウ (1件)
- ・ アブラハヤ (1件)
- ・ アマガエル (5件)
- ・ アユ (2件)
- ・ オタマジャクシ (2件)
- ・ カエル (10件)
- ・ カナヘビ (9件)
- ・ カメ (1件)
- ・ キンギョ (1件)
- ・ コイ (13件)
- ・ コエビ (1件)
- ・ サカナ (2件)
- ・ ザリガニ (7件)
- ・ サワガニ (1件)
- ・ トカゲ (8件)
- ・ ドジョウ (3件)
- ・ ニホンカナヘビ (1件)
- ・ ニホントカゲ (7件)
- ・ ハヤ (2件)
- ・ フナ (3件)
- ・ ヘビ (2件)
- ・ ホウネンエビ (1件)
- ・ ミナミヌマエビ (1件)
- ・ メダカ (12件)
- ・ ヤナギクラゲ (1件)
- ・ ヤモリ (4件)

えびな生きもの大調査調査報告書

発行：令和6年3月

編集：海老名市経済環境部環境政策課

〒243-0492 海老名市勝瀬 175 番地の1

